
音響の如く鳴り響く剣

緋月雛菊

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

音響の如く鳴り響く剣

【Nコード】

N3249Z

【作者名】

緋月雛菊

【あらすじ】

幻想郷から久々に日本へと遊びに来た妖の少女、華夜は日本がブリタニア帝国からの侵略を受けていた事を知り、ブリタニアの人間に実験体にされかけそうになったが一目散に逃げた。そして、彼女はアッシュフォード学園に逃げ込んだ

序章〈prologue〉

走る、走る。

瓦礫に覆われた道を、無心で走り抜ける。

そうしないと『彼奴等』から逃げ切る事は出来ない。

『隙間を操る力』は使わない。

あれは私に宿る『能力達の1つ』に過ぎない。

『ギアス』と言う呪われた力ではないもの。

私は『玩具』ではないし、かといって『人間』でもない。

どちらかと言えば『妖^{あやかし}』あるいは『不老不死となった者』と言った方が正しい。

けど私にとってはどうでもいい事。

今は『彼奴等』から逃げ切る事を専念するのが先。

私は故郷である『幻想郷』から、この『日本』へと徐々に遊びに来た。

だが『日本』は変わり果てていた。

『ブリタニア帝国』という大国によって『エリア11』という馬鹿

げた名前に変わり、国土は既にボロボロになっている。

此処で暮らしていた友達はブリタニア人に殺された。

：いや『ブリタニア人のせいで自殺した』と言った方が正しいのかもしれない。

おかしな実験の玩具になるより、はるかにマシだったのだろう。

けど私は自殺するきはないし、かと言って実験玩具になるきもない。

友達の肉体は私が消した。

魂は『白玉楼』に向かったと思う。

帰ったら幽々子と妖夢にお礼、言っとかなきゃね。

：気付いたら巨大な建物がある敷地内に入っていた。

建物自体が『紅魔館』よりはるかにデカいけど、敷地面積は『白玉楼』よりはかなり小さい。

とりあえず、此処で私は体を休める事にした。

だが、此処の人間に見つかったという事に気付いたのは目覚めた時だった。

主人公紹介

【オリ主】

華夜・アルヴィ

幻想郷出身で『ありとあらゆる能力を操る程度の能力』を持つ妖の少女。

美少年と見紛う程の顔付きで身長は平均女子の身長をはるかに上回っている。

因みにルルーシュより身長が高い。

髪は鮮やか銀色で、双眸は鮮血と見紛う程の鮮やかな紅色、肌は白い。

髪は長く、高く結わえている。

胸がつるぺたで身長が高いので、どうみても男の子にしか見えないが、本人は気にしていない。

自分の能力をギアスと同視された事が癪に触った為、以降ギアスを嫌っている。

C・Cと同じでピザ好き。

相棒の『妖刀・華霊月』を装備している。

【華夜の能力『ありとあらゆる能力を操る程度の能力』について】

フランドールの『ありとあらゆる物を破壊する程度』レミリアの『運命を操る程度』霊夢の『空を飛ぶ程度』パチュリーの『火水木金

土日月を操る程度』咲夜の『時間を操る程度』紫の『境界を操る程度』などの能力を扱える。

そのため、妹紅の『老いることも死ぬこともない程度』の能力も持っているため、彼女と同じ髪色と瞳の色をしている。

華夜自身、強すぎる力を持つ為、彼女にとってはちょうどよいコントロールしやすい能力になっている。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3249z/>

音響の如く鳴り響く剣

2011年12月11日09時45分発行